

一 若復有人^{にやく ぶ う にん い しっぽうまん} 以七宝滿 三千大千世界 供養於^{ぎゆう} 及大菩薩 辟支^{びやく し ぶつ} 阿羅漢
是人所得功德 不如受持 此法華經 乃至一四句偈 其福最多^ごの事

仰せに云はく、此の經文は七宝を以て三千大千世界に満て、^{ししゅう}四聖を供養せんよりは、法華經の一偈^げを受持し奉らんには劣るなりと説かれたり。天台大師は生養成^{しょうようじょうえい}栄の四の義を以て法華經の功德を積し玉へり。所詮末法に入つては題目の五字即ち是なり。此の妙法蓮華經の五字は万法能^{のうしょう}生^{またまた}の父母なり。生養成栄も亦復是くの如きなり。仍つて積には法を以て本と為すと積せり。三世十方の諸仏は妙法蓮華經を以て父母とし玉へり。此の故に四聖を供養するよりも法華經を持つは勝れたり。七宝は世間の財宝なり。四聖は滅に歸する^{ら かん}仏・菩薩・羅漢なり。さて妙法の功德は一得永不失^{とくよう ぶ しつ}なれば朽失せざる功德なり。此の故に勝れたり云云。